

### Ⅲ 調査物件個票（H28～R2 調査）



4403324 小野川の埋没樹木群（日田市大字小野小字下小竹）



コード番号	4401285
所在地	中津市山国川下流域～宇佐市との境界
位置情報	北緯 33.6030° 東経 131.2284° (大新田地区海岸)
地形図名	2万5千分の1地形図 中津 <sup>さだのみ</sup> 定留 宇佐
概説	九州では有明海に次ぐ大きな干潟である。干潮時は最大沖合約 3km の干潟が出現する。山国川下流域から犬丸川下流域までの約 10km、面積は 1.347ha である。多くの動植物が生息し、中には希少種も数多く報告され、国内有数の生物多様性を誇る。
詳細説明	「中津干潟レポート 2013」によると、中津干潟で生息が確認できた動物が 639 種、植物が 64 種の合計 703 種である。そのうち 27% が絶滅危惧種とされる。干潟貝類では、種数 235 種 (生息種数 163) とある (足利, 2014)。環境省の絶滅危惧種 I 類に指定されているカブトガニも多く生息している。鳥類ではシギ・チドリの中継地・越冬地でもあり、多くの水辺の鳥の飛来地となっている (和田, 2017)。
現況	<p>中津干潟は次の 6 地域からなっている。①鍋島地区：犬丸川河口から宇佐市境界 ②今津・<sup>さだのみ</sup>定留地区：中津港東から犬丸川河口 ③<sup>おおしんでん</sup>大新田地区：自見川河口から舞手川河口 ④<sup>かきせがわ</sup>米山地区：蛸瀬川右岸一帯 ⑤<sup>さんびやっけんはま</sup>三百間浜：中津川と蛸瀬川間 ⑥<sup>こいわい</sup>小祝地区：山国川と支流中津川の間 (地図参照) である (足利, 2014)。</p> <p>中津川河口の干潟では、岸辺には安山岩の巨礫が多く、岸から離れると泥質に変化する。また、自見川河口も泥質である。大新田干潟では自然の海岸が残り、干潟・砂浜・黒松などの樹林へと変化し海岸の原風景を呈する。砂は輝石などの有色鉱物が多く白砂青松とまではいかない。汀線から 200m ほどにはウミニナ・マメコブシガニ・コアマモの群落が見られ、川岸にはハマボス等の海浜植物も見られた。ゴミ類等の漂着物は非常に少ない。(現地調査員：山田俊治)</p>
文化財としての指定状況	指定なし
その他指定等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の重要湿地 500 「中津海岸および宇佐海岸」</li> <li>・生物多様性の観点から重要度の高い海域「周防灘南部」</li> <li>・生物多様性の観点から重要度の高い湿地「中津海岸及び宇佐海岸」</li> <li>・おおいたの重要な自然共生地域「生物多様性に富む中津干潟と塩性湿地」</li> </ul>
学術上の評価	<p>評価：瀬戸内海に面した潮位差が大きいエリアで広い範囲に干潟が形成されている。干潟に生息する動植物を育む貴重な場所である。</p> <p>ランク：IV</p>



干潮時の自見川河口



満潮間近な自見川河口の東方



中津川河口干潟



防波堤近くの円礫



中津干潟の砂  
左：100m沖合の泥 右：防波堤に近い砂

#### 位置情報

(産総研地質調査総合センター地質図 navi)

[https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php?lat=33.6030&lon=131.2284&z=13&layers=seamless\\_geo\\_v2&pin=1&label=285](https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php?lat=33.6030&lon=131.2284&z=13&layers=seamless_geo_v2&pin=1&label=285)

#### 引用文献

足利由紀子編 (2014) 中津干潟レポート 2013. NPO 法人水辺に遊ぶ会, 中津, 127p.

和田太一 (2017) 中津干潟シギ・チドリ類レポート 2016. NPO 法人水辺に遊ぶ会, 中津, 65p.

コード番号	4410286
所在地	中津市大字植野
位置情報	北緯 33.5641° 東経 131.2645°
地形図名	2万5千分の1地形図 中津 定留 宇佐
概説	植野貝塚は、豊前海岸から豊後高田の海岸にかけて散在している縄文後期の貝塚の一つである。1955年に別府大学が発掘調査を行い、貝類、土器、鏃、石器、遺骸（臼歯2本）等が発掘された（賀川、1957）。
詳細説明	<p>中津市を流れる犬丸川河口から約 2.5km の右岸に位置する。貝塚の東側には標高 15～20m の低い段丘が北西～北東方向に伸び、西側には川幅 3m ほどの植野川が流れ、周辺には水田が広がっている。貝塚は、植野川に沿って南北に 38m、東西約 6m の広がり、段丘の縁で約 1m の厚さの貝層が確認されている。</p> <p>賀川（1957）によると、貝類は 15 種、魚類ではマダイ、クロダイ等、動物ではイノシシ、ニホンジカ、ヤマイヌ等が明確に確認されている。2012年7月豪雨で貝塚の一部が土石流として流出した。山守（2013）によると、2012年7月の豪雨で流出した土石流中の貝類の分析では、29種が確認され、中でもハマグリが多く 43.7%、次いでシオフキ、カキの仲間、オキシジミ、アサリと続く。そのほか、姫島の黒曜石で作られた鏃や縄文後期初頭の中津式土器などが数多く出土している。</p>
現況	<p>国道 213 号にかかる犬丸橋の東側から、国道を逸れて植野地区中心部に進むと植野川そばに案内板がある。しかし、この案内板は道路と平行に設置されているため見過ごしやすい。また、案内板を見ても貝塚がどちらの方向にあるのか分かりにくい。</p> <p>6月下旬は地面に貝塚跡をうかがわせる貝片の散らばりが観察できたが、7月下旬には腰ほどの高さの草が生い茂り、近寄りがたい状態であった。</p> <p>1955年発掘調査時の縄文後期初頭の中津式土器、多くの貝類、姫島黒曜石で作られた鏃等は、2019年に開館した中津市歴史博物館に保管されている。</p> <p>（現地調査員：山田俊治）</p>
文化財としての指定状況	・県指定史跡「植野貝塚」（指定：昭和 32 年 3 月 26 日）
その他指定等	
学術上の評価	<p>評価：豊前海岸から豊後高田の海岸にかけて散在している縄文後期貝塚の一つで、瀬戸内海沿岸における海面変化と人間生活の関係が理解される上で重要である。</p> <p>ランク：Ⅲ</p>



貝塚の台地



貝類の破片と輝石安山岩の円礫



散らばっていた貝殻片



草むらの中の貝殻片



犬丸川から見た植野貝塚方面

#### 位置情報

(産総研地質調査総合センター地質図 navi)

[https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php?lat=33.5641&lon=131.2645&z=13&layers=samless\\_geo\\_v2&pin=1&label=\\_286](https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php?lat=33.5641&lon=131.2645&z=13&layers=samless_geo_v2&pin=1&label=_286)

#### 引用文献

賀川光夫 (1957) 大分県豊前中津市植野貝塚調査報告. 中津市教育委員会, 16p.

山守 巧 (2013) 植野貝塚災害土砂内貝類調査報告書. NPO 法人水辺に遊ぶ会, 中津, 9p.



<u>コード番号</u>	4401287
<u>所在地</u>	中津市本耶馬溪町、耶馬溪町、玖珠郡玖珠町
<u>位置情報</u>	北緯 33.4994° 東経 131.1733° (青の洞門)
<u>地形図名</u>	2万5千分の1地形図 耶馬溪東部 深耶馬溪
<u>概説</u>	<p>耶馬溪は2つの侵食地形からなる。一つは鮮新世初期に堆積した火砕岩（北坂本累層）が侵食を受けたもの、もう一つは北坂本累層や鮮新世に堆積した火山岩類を覆う耶馬溪火砕流堆積物が侵食を受けて奇岩・奇峰を形成したものである。前者には「青の洞門」や「羅漢寺耶馬溪」、後者には「裏耶馬溪」と「深耶馬溪」がある。【前回調査 青の洞門、競秀峰 4402005】</p>
<u>詳細説明</u>	<p>度重なる水害を被る地であるが、現在は修復が完了している。北坂本累層に相当する鮮新世初頭の角閃石輝石安山岩質凝灰角礫岩や火山灰（角縁・松本，1990）が山国川の侵食によって絶壁や急崖を作っている。</p> <p>羅漢寺耶馬溪は青の洞門の南東方2.5km付近に位置する。奇岩・奇峰・洞を構成する。岩石は青の洞門と同じ地層に属する。川底から100mほど高い地点にも、過去に川底が高かった頃に削られてできた絶壁や洞・陸橋などが見られる。凝灰岩・凝灰角礫岩・火山礫凝灰岩・溶岩などの多種の火山岩類を観察できる。</p> <p>裏耶馬溪と深耶馬溪は、約100万年前に噴出した耶馬溪火砕流堆積物が河川による侵食作用を受けて奇岩・奇峰を形成している。</p>
<u>現況</u>	<p>山国川およびその支流では、1953年（二八豪雨）をはじめ、2012年、2017年にも大きな水害を被った。これらの復旧工事は今も続けられている。耶馬溪の景勝地をつなぐ幹線道路は復旧し、青洞門では山国川をまたぐ歩行者用の橋が作られ、河床には散策用の歩道が整備されている。（現地調査員：木戸道男）</p>
<u>文化財としての指定状況</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国指定名勝「耶馬溪」（指定：大正12年3月7日）</li> </ul>
<u>その他指定等</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耶馬日田英彦山国定公園</li> </ul>
<u>学術上の評価</u>	<p>評価：国指定名勝であるが、天然記念物としての火山噴出物が形成した特徴的な独特の地形が連続的・広域に分布する様相は学術上価値がある。</p> <p>ランク：IV</p>



耶馬溪の北の入口の「青の洞門」



青の洞門付近 鮮新世初期に堆積した凝灰角礫岩



羅漢寺付近 中央左の洞窟は陸橋を形成



羅漢寺 凝灰角礫岩が侵食で祠になっている



裏耶馬溪 奇岩奇峰は耶馬溪火砕流堆積物からなる

#### 位置情報

(産総研地質調査総合センター地質図 navi)

[https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php?lat=33.4994&lon=131.1733&z=13&layers=seamless\\_geo\\_v2&pin=1&label=\\_287](https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php?lat=33.4994&lon=131.1733&z=13&layers=seamless_geo_v2&pin=1&label=_287)

#### 引用文献

角縁 進・松本 稯夫 (1990) 大分県耶馬溪地域の未分化ソレイト玄武岩. 岩鉱, vol. 85, p. 559-568.

木戸道男 (2007) 北部九州の後期新生代火山層序と岩脈および小規模断層解析に基づく地質構造形成史. 熊本大学大学院自然科学研究科博士論文, 200p.



<u>コード番号</u>	4401288
<u>所在地</u>	宇佐市岩保新田
<u>位置情報</u>	北緯 33.5766° 東経 131.4007° (和間海浜公園)
<u>地形図名</u>	2万5千分の1地形図 立石 豊後高田
<u>概説</u>	中津市から宇佐市、豊後高田市にかけての海岸線は遠浅の砂浜で、和間海岸では干潮時には広い干潟が見られる。海岸線には防風のための松林が連なっており、和間海浜公園が整備されている。
<u>詳細説明</u>	<p>中津市から宇佐市、豊後高田市にかけての海岸線には、石塚ほか(2009)によると、後期更新世末-完新世の浜堤堆積物や三角州堆積物が分布している。和間海岸は宇佐市の東部で海に入る寄藻川河口の西、長洲町の東に当たり、昔から「和間ノ浜」として知られている。『宗像神社古縁起』には神功皇后が朝鮮出兵の際、宇佐の「和摩浜」で48隻の船を造ったと記されており、『八幡本紀』には和間の浜は宇佐郡松崎の海辺で、放生会を執行するとある。</p> <p>海岸線には防風のための松林が連なり、日本的な海岸風景である「白砂青松」を見ることができる。現在では和間海浜公園が整備されて、干潟での潮干狩りなどが楽しめる。</p>
<u>現況</u>	干潮時には遠浅の海岸となり、海岸線に平行な砂地と海水の縞模様の景観が見られる。(現地調査員：堀田英俊)
<u>文化財としての指定状況</u>	指定なし
<u>その他指定等</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性の観点から重要度の高い海域「周防灘南部」</li> <li>・生物多様性の観点から重要度の高い湿地「中津海岸及び宇佐海岸」</li> <li>・おおいたの重要な自然共生地域「生物多様性に富む宇佐地域の干潟と塩性湿地」</li> </ul>
<u>学術上の評価</u>	<p>評価：瀬戸内海に面した潮位差が大きいエリアで広い範囲に干潟が形成されている。中津干潟等とともに県北部の海岸地形として貴重である。</p> <p>ランク：Ⅲ</p>





夕方干潮時の干潟（西向き）



夕方干潮時の干潟（東向き）



リップルマーク



遠方に周防灘を望む

#### 位置情報

（産総研地質調査総合センター地質図 navi）

[https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php?lat=33.5766&lon=131.4007&z=13&layers=seamless\\_geo\\_v2&pin=1&label=288](https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php?lat=33.5766&lon=131.4007&z=13&layers=seamless_geo_v2&pin=1&label=288)

#### 引用文献

石塚吉浩・尾崎正紀・星住英夫・松浦浩久・宮崎一博・名和一成・実松健造・駒澤正夫（2009）20万分の1地質図幅「中津」．産業技術総合研究所地質調査総合センター．



コード番号	4410289
所在地	宇佐市 <sup>あじも</sup> 安心院町下市
位置情報	北緯 33.4425° 東経 131.3503°
地形図名	2万5千分の1地形図 下市
概説	下市磨崖仏は、大分県宇佐市安心院町下市にある室町時代前半の磨崖仏である（大分県教育庁管理部文化課編，1991）。
詳細説明	下市神社の丘陵の端にある溶結凝灰岩（阿蘇4）の懸崖に不動明王坐像を中央に配し、その左右に9軀の如来・菩薩・天部などの立像や坐像を浮彫りで刻む。中尊の不動明王像はもっとも大きく、頭を右方にわずかに傾け、総髪で、両眼を見開き、左手を外方に開く古様な形制であらわされるが、相好は童子風で可愛らしい。この表現は不動明王の左右に脇侍する阿弥陀如来や薬師如来、観音菩薩にも認められる。彫技は平板で弱く、その製作時期は室町時代初期であろう。像高、70～200cm。星住・森下（1993）によると、この溶結凝灰岩は阿蘇4火砕流堆積物である。
現況	崖を降りた一段下の位置にあり、2020年九州豪雨の際にも崖崩れを起こしていない。岩石表面には苔があり磨崖仏の姿はよく見なければわからない。 （現地調査員：堀田英俊）
文化財としての指定状況	・県指定史跡「下市磨崖仏」（指定：昭和56年3月31日）
その他指定等	
学術上の評価	評価：阿蘇4火砕流堆積物に作成された磨崖仏は、大野川流域など県中南部には多いが、県北地域では希少であるため学術上価値が高い。 ランク：Ⅱ



駐車場にある標柱



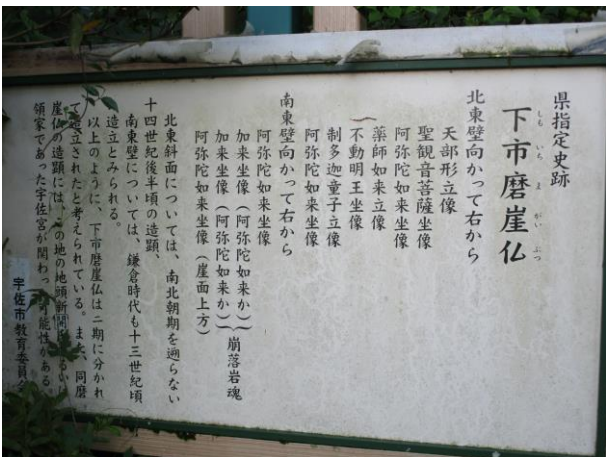
磨崖仏全景



磨崖仏（斜方）



磨崖仏（近接）



県指定史跡の看板

位置情報

(産総研地質調査総合センター地質図 navi)

[https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php?lat=33.4425&lon=131.3503&z=13&layers=seamless\\_geo\\_v2&pin=1&label=\\_289](https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php?lat=33.4425&lon=131.3503&z=13&layers=seamless_geo_v2&pin=1&label=_289)

引用文献

星住英夫・森下祐一（1993）豊岡地域の地質．地域地質研究報告（5万分の1地質図幅），地質調査所，75p.

大分県教育庁管理部文化課編（1991）大分県の文化財．大分県教育委員会，420p.